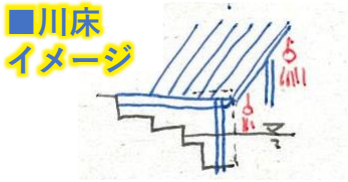
資料２

各班の成果シート
（中間的な目指す姿）

令和5年12月18日
第４回 加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォームワーキング

成果シート

Aグループ
メインテーマ：「 みず（加茂川） 」

みず（加茂川）		
方向性	**中間的な目指す姿**	
水辺の滞在環境の向上	コンセプト	**市民が憩える水辺のリビング空間＆誰もが楽しく使えるパーク空間**
	説明	• 特定の世代、特定の方々に限定するのではなく、老若男女、多くの市民が日常的に利用する空間を目指す。 • 季節感（春夏秋）を感じることができ、繰り返し訪れたくなる場所を目指す。 • 多様な利用ニーズを共存させるため、動的な使い方（若者のスケボー等）をするゾーンと、佇み・憩いなど静的な使い方をするゾーンに分けて、日常の滞在者を増やす。 • 滞在する上で、夏場の日よけ（日陰）、座るところは必須であり、河川利用のルールの範囲で、できるところから環境を整える（例えば構造物による日よけは無理であるが、移動可能なビーチパラソルをたくさん配置することは可能） • 理想的には、右岸と左岸を行き来しやすいようにしたい。 • 今でもジョギング、ウォーキングしている人は見られるが、河川敷の舗装の改修などの機会を捉えてゴムチップ舗装などができると良い。 
	シーン	• 世代に関わらずいつでも休息できる場所となっている。 • 子連れファミリーが散歩したり、遊んだり、ランチしたり、ジョギングやウォーキングする人がいたり、カップルがベンチに座っておしゃべりしてたりする。 • スケボーする若者、ゲートボールする高齢者が、河川空間利用を時間や曜日でシェアリングしている。 • 短時間でも長時間でも誰もが自分らしい過ごし方ができる。 • 子供たちが楽しく水遊びをしている。 • ルールを守ることを前提に、花火や焚火（焼き芋）などを楽しめる（できるゾーンを指定）。
	根拠・必要性	• 加茂川周辺の滞在者は、50代が大半で、20代は僅か。 ⇒50代以上の利用を大切にしながら、先ずは若い世代の滞在アップが重要。 • 現在、加茂川では火気を使う制限はないが、問題が生じると禁止されてしまう可能性がある。このため、焚火等を認める場合は、適正利用を促す仕組みも必要となる。

成果シート

Aグループ
メインテーマ：「「みず（加茂川）　」

みず（加茂川）		
方向性	**中間的な目指す姿**	
舞台としてのにぎわい活用の促進	コンセプト	**・オールシーズン型のインスタ映えスポット** **～川舞台・加茂川（加茂川アート化計画）～**
	説明	• 「加茂川の鯉のぼり」だけでなく、加茂川を訪れる仕掛けをオールシーズンで実施し、「加茂川に行けば何かが流れている／見れる」ようにする。 • 高水敷（河川敷）や勾配のきつい法面といった加茂川の特徴を生かして、アートを感じる利用をする（河川敷を客席、法面を展示・表現空間として活用） • 長時間の滞在を可能とするために、広々とした自然の中で飲食を楽しめる場を提供する。
	シーン	• 季節ごとのイベントを通じて加茂川がプチ観光地となっている。 ⇒春：鯉のぼり、初夏：ロードレース（新規）　夏：夏祭り、秋：秋満喫イベント（新規） • 川を舞台としたアートイベントが実施されている。 ⇒プロジェクションマッピング、LED設置によるライトアップ • 飲食機能の導入する。 ⇒キッチンカーの導入（定期的に入れ替わる） ⇒仮設店舗による飲食テナントの設置 • ステージの整備によりコンサートで賑わう。 • インスタ映えスポットとして有名になり、オールシーズンで加茂川が発信されている。 （SNS・YouTube等） 加茂川鯉のぼり 出典：にいがた観光ナビ 堤防でのプロジェクションマッピングのイメージ
	根拠・必要性	• 出水期（６月10日～９月３日）のイベントは調整が必要。 • 夏祭りの時期や鯉のぼりの時期は１日に1,000人～5,000人の人が滞在するため、大人数が腰かけられる場所が必要。

成果シート

Aグループ
メインテーマ：「つながり」

つながり		
方向性	**中間的な目指す姿**	
まち、みず、みどりの一体感の創出	コンセプト	**加茂山⇔商店街⇔加茂川で新たな人の流れを生み出す**
	説明	• 加茂山、商店街、加茂川がそれぞれに魅力を高めておくことが前提（それぞれが強くなってはじめて「連携」の意味がある。弱いもの同士が連携しても効果が生まれない）。 • 現状では商店街、加茂川、加茂山のイベントが別々に行われているため、まちなかエリア全体をフィールドとした連携イベントを行う。 • 一部区間（加茂山⇔商店街⇔加茂川）をシーズン又は時間を決めて歩行者天国とする。（将来的には景観舗装などの整備ができると良い。ミニ電気自動車ような乗り物で加茂山まで登れると良い） • 商店街のテイクアウトできる飲食店等で、加茂山や加茂川のおすすめ滞在スポットを紹介（テイクアウトして座って食べらえる所を紹介）する。 • 多言語による案内やキャッシュレスは標準的なものとしておきたい。
	シーン	• 加茂山・加茂川で遊んで、商店街でランチ、コーヒーブレイク、そのあと、ショッピング。 • 商店街でテイクアウトして、加茂山、加茂川で加茂グルメを満喫している。
	根拠・必要性	葵橋～穀町・本町（宮大門交差点）～青梅神社は、現状でも歩行者通行量が相対的に多い。

成果シート

Aグループ
メインテーマ：「つながり」

つながり		
方向性	**中間的な目指す姿**	
ひと、もの、ことの好循環づくり	コンセプト	**みんなでつくりあげる居心地の良い空間**
	説明	• 学生（加茂農林高校等）や高齢者が活躍できる場・機会を用意することで、地域の活力が増すとともに、外からも魅力あふれるまちと認識され、好循環を創り出していくことができる。 • まちの美化清掃活用や花いっぱい運動などおもてなし空間づくり活動について、潜在的なニーズ（やりたいと思っている人々）に広く情報発信して、活動の場や機会を提供できる仕組みをつくる。 • 空き店舗をチャレンジショップとして活用することが考えられるが、所有者との調整など、簡単にできない場合もあるため、加茂川や加茂山をチャレンジ空間として活用できる仕組みをつくる。 ■可動式店舗イメージ
	シーン	• 農林高校の生徒さんが、農産物の販売や花壇の維持管理などプレイヤーとして活動している。 • 地域の方々が清掃や植栽の維持管理など、おもてなし空間づくり活動をしている。 • 加茂川の河川敷に仮設のチャレンジショップを開設し、実績を積み重ねたあと、地元金融機関の支援ももらって商店街の空き店舗で本格開業できた。
	根拠・必要性	「加茂川一斉大清掃」のような年1回のイベントではなく、それぞれの学校や自治・商業組織等が定期的に活動することで、加茂川を核とした地域への愛着が醸成される。

成果シート

Aグループ
サブテーマ：「まち（商店街）」

まち（商店街）		
方向性	**中間的な目指す姿**	
まちなかの主骨格として高密化	コンセプト	• **市民がふらっと行きたくなる商店街**
	説明等	• 休日に加茂市民、近隣地区住民もふらっと訪れたくなる商店街を目指す。 • 加茂山、加茂川を訪れた時にちょっと立ち寄る場所（飲食・休憩・買物）がある。 • 飲食店（食べ歩き）が不足しているので、テイクアウト、食べ歩きができるようにする。 • 各商店の店頭の一角に「加茂オリジナル推奨品」などを置き、一丸となって情報発信する。 • チャレンジショップを支援するとともに、交流人口を増やすことで、小規模な店舗の出店を誘致する。 • 年配者、子どもに優しい商店街（バリアフリー化）を目指す。 • 徒歩以外でも安全に移動できる環境をつくる。 • 集客するためのイベントスペースを確保する（キッチンカーエリアなど）。
令和に暮らせる商店街づくり	コンセプト	• **商店街まるごとコミセン化～あの人に会いに商店街へ！～**
	説明等	• 大型店舗ではなく、商店街に行く理由としては、「店主とのコミュニケーション」「行けば常連の誰かがいる」からである。店主の顔・キャラが見える情報発信を行う。 • 各店舗がコミュニティセンター化すると皆が行きたくなる。 • 人が商店街に滞在すれば、商店街機能の維持・向上につながる。

成果シート

Aグループ
サブテーマ：「みどり（加茂山）」

みどり（加茂山）		
方向性	**中間的な目指す姿**	
まとまりを生かした憩い空間としての質の向上	コンセプト	**一日いられるプレイグラウンド加茂山**
	説明等	• ファミリーのおでかけスポットのイメージを目指す • リス園やローラースライダー、青梅神社など、一点ものでの集客は強いが、滞在機能が弱い。 • 加茂山公園の特徴は、まちなかにありながら自然の真っ只中にいるような環境であり、プレイパークのように自然体験などいろいろな体験をしながら遊べる場所を目指す。 ⇒例えば、人工的な遊具は更新しないでツリーハウス、手作り遊具、どろんこ遊び、落ち葉プール、虫取り、古道探検など自然をわくわくしながら、体験できる公園へ転換するなど。 プレイパークのイメージ

成果シート

Bグループ
メインテーマ：「みどり（加茂山）」

みどり（加茂山）		
方向性	**中間的な目指す姿**	
まとまりを生かした憩い空間としての質の向上	コンセプト	**加茂山のテーマパーク化** **～癒しや健康づくり、遊び等の様々な要素を活かして季節・時間問わず訪れる場所にする～**
	説明	• 大型ローラースライダーやリス園、民俗資料館等の様々なテーマで楽しむ加茂山を目指す。 • 季節や時間帯（昼夜）を問わず訪れたい場所を目指す。 • 県央地域周辺で「癒し」をキーワードにした街はないため、街の近くに癒しのエリアがあるのは売りになる。 • 「癒し」は、訪問者の心と身体を対象にリフレッシュやリラックスを提供する場を目指す。 • 加茂山には、神秘・池の端・食といった３つの「癒し」がある。 • 山全体を活用したハイキングコースや児童公園等を活用した健康づくりの拠点を図る。
	シーン	• JR加茂駅とタイアップした小京都加茂ツアーとして、まち（商店街）・みどり（加茂山）・みず（加茂川）を巡るツアーを実施している。 • 加茂山の中に張り巡らせたハイキング・トレイルランニングコースを毎日歩く・走ることで習慣化し、心も身体も健康になれる。 • 距離や標高、各施設への案内が充実しており、その時の気分で移動しやすい公園になっている。 • 雨対策や暑さ対策、園路灯が充実しており、雨天や夏場、夜でも訪れやすい場所になっている。 • 「何となく」で行きたくなる場所になっている。
	根拠・必要性	• 加茂山公園の入込客数はコロナ前は約30万人であったが、回復途上にある。 • 加古山公園の訪問者は、市内より近隣市（新潟市）からの利用者が多い状況があるため、市民の利用を促進する必要がある。 • 現状、加茂山公園は平日に比べ休日の利用が少ない状況になる。 • 平日は、高齢者（60代以上）が多く、休日は、30代が少ない傾向にある。

成果シート

Bグループ
メインテーマ：「つながり」

つながり		
方向性	**中間的な目指す姿**	
まち、みず、みどりの一体感の創出	コンセプト	**どこにいても「みどり（加茂山）」・「みず（加茂川）」を感じられる「まち（商店街）」**
	説明	• 加茂山・加茂川・商店街のどこにいてもそれ以外の要素があることを五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）で感じられるまちを目指す。
	シーン	• 商店街を歩いていると加茂山からの風を感じ、立ち寄ってみたくなる。 • 商店街は、山遊び（ハイキング・トレイルランニング他）・川遊びの休憩場所として機能している。 • 加茂山の見晴台から商店街や加茂川を見渡せる。 • 「加茂に来れば健康になれる」といった地域を挙げた取り組みを認知されている。 • まち・みず・みどりで実施している取組みについて、テーマ毎の繋がりを分かるような仕掛け（周遊マップ、案内サイン　等）がある。 • まち・みず・みどりの愛称をつくり、親しみが感じられる。
	根拠・必要性	• 現状、加茂山公園、加茂山は消費地（お金が落ちる場所）ではないため、訪問者の消費は商店街が担う必要がある。 • これまでに加茂山公園の散策ガイドの仕組みはあるため、それの拡大や観光商品化が必要となる。

成果シート

Bグループ
メインテーマ：「つながり」

つながり		
方向性	**中間的な目指す姿**	
ひと、もの、ことの好循環づくり	コンセプト	**地域をあげた「癒し」の提供**
	説明	• 市民が加茂の強みを知り、加茂で提供する様々な「癒し」を訪問者のニーズにあわせ案内したり、伝えらえられるまちを目指す。
	シーン	• 地域を歩いて、走って、お風呂でスッキリ、罪悪感無しで食べて・飲む等の一日を過ごせる。 • 市民が加茂の魅力や強みを理解しており、自身で使い倒せるようになる。それを訪問者にも説明できるようになることで、更なる訪問者やファンを増やしている。 • 地域で提供する「癒し」のコンテンツについて、場所に寄らず関連付けた周遊ルートを多数造成している。 • 小京都加茂の小旅行ビジネスが充実しており、地域産業が活発化している。 加茂市　ながいきストリートと加茂山散策コース（4．0km） ※新潟県健康ウォーキングロード登録コース
	根拠・必要性	• 商店街での消費拡大や歩行者通行量の増加により、まちの賑わいが拡大する。 • 商店街をあげたイベント開催が定着することで、地域の活性化や市内の認知が広がる。

成果シート

Bグループ
サブテーマ：「まち（商店街）」

まち（商店街）		
方向性	**中間的な目指す姿**	
まちなかの主骨格として高密化	コンセプト	**両端に出発地・拠点を有する歩行者を呼ぶまちなかの創出**
	説明等	• 加茂駅や公営駐車場が地域の出発点となっているため、周遊を促すような分散配置を目指す。 • 商店街を道の駅のような一体の施設と捉え、地域で様々なニーズに応えたり回遊する仕組みができている。 • ハレ（イベント時）とケ（日常時）のバランスのとれた商店街となっている。 • イベント時に商店街の各店舗との一体感が感じられる協力体制・取組みができている。 • 商店街や地域内の円滑に移動できる端末交通手段を確立している。
令和に暮らせる商店街づくり	コンセプト	**品揃えで他地域と勝負できる暮らせる商店街**
	説明等	• 郊外のスーパー等と差別化できる品揃えで勝負できる商店街を目指す。 • 他地域との差別化要素として「食」や「金物」といった消費者の細かいニーズに応える専門性を重視した店舗を充実させる。 • 各店舗は、EC対応も充実させ認知拡大を進めることで経営の安定化を図るとともに、実店舗を象徴として持つことでリアル・バーチャルを組み合わせた多角化を進める。 • 空き店舗利用を促進することで、時代のニーズに合わせた商店街としての新陳代謝を進める。 • 立ち寄りやすい店舗を増やす、市民だけでなく市外から来客のある店づくりを進める。

成果シート

Bグループ
サブテーマ：「みず（加茂川）」

みず（加茂川）		
方向性	**中間的な目指す姿**	
水辺の滞在環境の向上	コンセプト	**居心地良さに着目した川辺利用の促進**
	説明等	• 川レジャーを充実させることで、「川レジャーの加茂」といったブランドの確立。 • 河川敷へのアプローチを改善し、商店街からアクセスしやすい環境整備を進める。 • 屋根付休憩所や駐車場を設置し、川辺への訪問や滞在をしやすくする。 • やすらぎ堤や川床を設けることで、川辺の訪問目的や滞在時間を増やす。
舞台としてのにぎわい活用の促進	コンセプト	**人を集める試す場所として、加茂川を使い倒す**
	説明等	• ミズベリングといった取組みにより、川辺を利用しやすい・居心地良い環境整備の実証を進める。 • 夕涼みカフェやビアガーデン、バーベキューといった季節に合わせた取り組みの充実により、年間を通じた活用を目指す。 • マラソンや涼感イベント等の川辺ならではの取組みを増やし、加茂川を使い倒す。

成果シート

Cグループ
メインテーマ：「まち（商店街）」

まち（商店街）

方向性	中間的な目指す姿	
~~・まちなかの主骨格として高密化~~ ~~・令和に暮らせる商店街づくり~~ 【変更】 令和に「わくわく感」がよみがえる商店街づくり	コンセプト	**地域密着型で、加茂市民が笑顔になれる『商店街まるごと「道の駅」』** **～加茂のショーケース空間となる商店街づくり**
	説明	• 多くの市民の支持を得るために全方位的なコンセプトを掲げることが重要（「道の駅」はそれが可能）。 • まちなかエリアで暮らす人、加茂駅を利用する若者、まちなかエリア外の市民（西加茂、東加茂、七谷地区等）も楽しく過ごせ、幸せになれる「道の駅」を目指す。 • コンセプトが差別化されていれば、近隣の道の駅との競合は発生しない。商店街まるごと「道の駅」は、人が暮らしている「道の駅」で、全国的に稀有な事例となり得る。 • 加茂市民ファーストな道の駅の運営を基本としたい。（極論すると、市外の人に媚びない。加茂の道の駅に共感できる人が来てくれればよい。今ある資産をトコトン生かして賑わいを創出）
	シーン	• 商店街めぐりをしていたら、あっという間に歩行数が10000歩。健康ポイント（スマホアプリ）で商店街のおいしいアイスをいただき。 • まちなかエリアのこども園に子どもを迎えにいった帰りにお買い物。子どもの託児サービスを利用できて便利。商店街で買い物すると託児料金が割引となり嬉しい。 • 商店街の飲食店に高校生や大学生が、学校帰り、休日に立ち寄っている。 • 日中は近所に住む高齢者が、井戸端会議を楽しんでいる（心も健康になる）。 • 商店街に子どもの遊び場ができて、街がにぎやかに、明るくなった。 • 加茂の名物･特産品･お土産が買うことができ、市外の友人を連れてきた。 • 「道の駅」になったけど、速度抑制、大型車の流入抑制、特定のシーズン・日時での歩行者天国などにより、交通環境は安全・安心を維持。 • 以前は七谷からタクシーで買い物にきていたけど、新町で降りると無料のバスができたので助かっている。
	根拠・必要性	• 道の駅は市外から多くの人が訪れる施設ばかりではない。国土交通省は、地元に根差した道の駅をづくりも推奨。（防災、女性活躍、子育て支援、移住促進など） • 商店街が道の駅化した事例あり。（岡山県　道の駅「山陽道やかげ宿」） • 道の駅は、無料で24時間利用可能な駐車場・トイレ（規模要件なし、分散配置可）、情報発信（交通、生活、観光レク）、地域連携機能を備えればよい。 • 駐車場：80台程度の道の駅の事例あり。 • 地元企業も参画したPFI手法等による整備事例あり。 **■商店街が道の駅化した事例** 隣接する商店街を物販・飲食コーナーとして道の駅の施設と一体化を図ることでエリアの活性化を図る 駅舎（床500㎡） 商店街

成果シート

Cグループ
メインテーマ：「つながり」

つながり			
方向性	**中間的な目指す姿**		
まち、みず、みどりの一体感の創出	コンセプト	**「まち・みず・みどり」の魅力を体感できる主要な動線をつくる**	**まちなかが「まるごとプレイグラウンド」**
	説明	加茂川～穀町・本町（宮大門交差点）～加茂山は、「まち・みず・みどり」をつなぐ主要な動線として、季節の花（プランタ）などによる空間演出、案内・サインなど、「すぐできること」からシンボル化に取り組む。	加茂川での川遊び、商店街の遊び場空間、加茂山公園は、子供たちが思い切り遊べる空間となることで、ファミリーがまちなかに訪れるようになることを目指す。
	シーン	• 家族でのお出かけが「わくわく」するまちなかとなっている。（子どもが「行きたい、連れて行って」と言う場所になっている） • 商店街でランチをテイクアウトして、加茂山で山遊び。来週は加茂川で「川遊び」など、ファミリーのお出かけの選択肢が増えて、家族の楽しい思い出が増えている。 	
	根拠・必要性	• 葵橋～穀町・本町（宮大門交差点）～青梅神社は、現状でも歩行者通行量が相対的に多い。 • 穀町・本町（宮大門交差点）～青梅神社は、歩道の景観舗装や水路が整備済。 • 宮大門の交差点あたりは、昔、おもちゃ屋さんや駄菓子屋さんがあり、加茂市民の楽しい記憶を刻んでいる場所。	加茂公園は現在でも、新潟市や三条市から休日に訪れているレクリエーション空間となっている。 ⇒加茂山のポテンシャルを更に商店街、加茂川に波及させることが必要。

成果シート

Cグループ
メインテーマ：「つながり」

つながり			
方向性	**中間的な目指す姿**		
ひと、もの、ことの好循環づくり	コンセプト	**みんながプレイヤーとなって盛り上げる『商店街まるごと「道の駅」』**	**チャレンジを応援するまちなか**
	説明	商店街の「道の駅化」にあたっては、生活者の方々との間で合意形成が必要になるが、それを行いつつも、WIN－WINの視点で、生活者の方々をプレイヤーとして巻き込む仕組みをつくる。	• 起業、創業に関心・意欲がある若者、UIJターン者、事業者（商店主）がチャレンジショップ等を開設できる「場」と、それを支援する仕組みをつくる。 • 空き店舗、空き家を区別せずにマッチングを支援する仕組みをつくる（空き家・空き店舗バンク）。
	シーン	商店街の近隣にお住まいの方々が、掃除や花壇の管理、まちあるきガイドなどで、いきいきと活躍。 	• 空き店舗や公的遊休スペースがフリースペース、飲食店、チャレンジショップ、デイサービス、ゲストハウス（民泊）などになり、また、道路が時々イベント空間となるなど、まちなかは変化する「飽きない空間」となっている。 • まちなかでチャレンジする若者の職住近接／一体の住まいとして空き家が活用されている。 • 空き家が学生の住居などに活用され、学生が地域のコミュニティ活動の担い手となっている
	根拠・必要性	お住いの方々が、まちなかで活動していることは、「安全・安心」の目にもなる。 ⇒子どもたちにとって安心できる空間となる。	地域が地盤沈下しないためにはビジネスが循環する必要がある。循環の源は若い人であり、若い人が自ら仕事を創る取組を応援することが必要

成果シート

Cグループ
サブテーマ：「みず（加茂川）」

みず（加茂川）		
方向性	**中間的な目指す姿**	
水辺の滞在環境の向上	コンセプト	**水辺で冒険できる遊び場**
	説明等	• 昔と比べて川がきれいになっており、夏に子どもたちが川遊びしている。鯉のぼりのイベントが終わると滞在人口が減るため、子どもたちがもっと川で遊べるとよい。夏は蛍を見ることもできる。 • 理想的には、川の対岸を行き来しやすくなると良い。
舞台としてのにぎわい活用の促進	コンセプト	**加茂川の新たな風物詩づくり**
	説明等	• 小京都のイメージを高めるシンボル的な施設として「川床」のような施設があるとよい。 （ただし、河川利用のルールとの兼ね合いはあるかもしれない）

みどり（加茂山）		
方向性	**中間的な目指す姿**	
まとまりを生かした憩い空間としての質の向上	コンセプト	**ホスピタリティ（おもてなし）を感じられるお出かけ場所**
	説明等	【ポテンシャル】 • 加茂山公園は、遊具（ローラースライダー等）やリス園など、家族でお出かけしたい場所であるほか、トレッキングコースとしても良い場所。加茂山に来ているうちに、知らず知らずのうちにウォーキングしていることになり健康もアップする。 • 子どもがノビノビ遊べる「放牧環境」としては最高。子どもが遊んでいる間に大人はコーヒー、お茶、会話を楽しめる飲食スペースがもっとあるとよい（今も茶屋があるが、意欲のある民間事業者が更に参入できる仕組みがあるとよい）。 • 休日は新潟市や三条市から家族連れが来ており、集客面ではポテンシャルが高い。 【新たな取組イメージ】 • 初めて来た人にとって、どこにどう行ったらよいのか案内が不足しており、充実が必要。 • 車道を徒歩で登っていくのが現状で、高齢者や小さな子ども連れが、安全・快適に登れる歩行者専用のルートがあると、もっと行きやすくなる。 • 理想的には、ゴルフカートのような移動サービスがあるとよい（この移動サービスを商店街でも提供すれば、「まち」と「みどり」がつながる）